

令和6年度 研究推進計画

1 学校教育目標

夢や目標をもち、主体的に学び続ける児童の育成

2 研究概要

(1) 研究主題

自立した学び手の育成
～単元内自由進度学習による学びの調整力の育成と学力の定着～

(2) 主題設定の理由

I 今日の教育課題から

近年、生産年齢人口の減少や、絶え間ない技術革新により社会構造が大きく変化しており、予測困難な時代を迎えようとしている。これからの未来の担い手である子どもたちには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して多様な情報の中から、情報を取捨選択し、新たな価値につなげて課題を解決していくことが求められている。

II 育成したい資質・能力から

本校の教育目標である「夢や目標をもち、主体的に学び続ける児童の育成」を具現化するために、「アイデンティティ」「自発性」「コミュニケーション能力」を育てたい資質・能力として設定した。

全ての教育活動を通して、自分のよさや自分がこれから身に付けていくべきことは何かをふり返ることを大切にすることで、夢や目標を自分の言葉で表現できる「アイデンティティ」を確立させる。

また、主体的に学び続ける児童を育成するために、自ら課題を発見し、学習の進捗管理をしながら自らの学びを調整していく「自発性」と他者と協働的に学びを深めていくための「コミュニケーション能力」の育成を図っていく。

III 児童の実態から

昨年度まで、「探究的な学習に関する地域推進事業」の指定を受け、「自発性」と「コミュニケーション能力」を育成するために、探究のサイクルを取り入れた授業改善や、総合的な学習の時間・生活科での経験単元の開発を通して、教師がルールを敷くのではなく、児童の思いや願いを生かした授業づくりに取り組んできた。授業者の指導方針を「信頼して、任せて、待って、支える」（令和3年度個別最適な学びについて語る会 熊本大学教育学部 准教授 菅野一徳先生の講話より「教育の本質」）とし、教師主導の授業ではなく、児童と課題解決の目標を共有し、ファシリテーターとして問いかけにより児童の思考・判断・表現を促す指導を行った。

このような授業改善を行うことにより、児童の意識調査では次のような結果が見られた。

質問項目	肯定的評価の割合
・以前に比べ、自分自身の自発性（自分でやりたいという気持ち）は高まりましたか。	89.1%
・以前に比べ、自分自身のコミュニケーション能力は高まりましたか。	92.5%

児童の資質・能力の高まりに対する肯定感が高く、他者と対話をしながら、授業に意欲的に取り組んでいることが分かる。

質問項目	肯定的評価の割合
・授業がよくわかります。	90%
・授業では、自ら課題を見つけ、調べたり友達と話しあったりして解決をしています。	77%

・授業では、自分が分かっていることや分からないことは何かを考えながら、取り組んでいます。	82%
・ICT 機器を使った学習は、よく分かります。	80%

児童の意識調査の結果から、「授業が分かる」と回答した児童は、90%に達しているが、「自ら課題を見つけ、調べたり友達と話し合ったりして解決している」と回答した児童は、77%、学びを調整するために必要な「自分が分かっていることや分からないことは何かを考えながら、学習している」と回答した児童は82%に留まっており、授業に対して受け身になっていることが分かる。

自立した学び手を育成するために、甲山小学校が今まで取り組んできた、児童の思いや願いを大切にしたい「信頼して・任せて・待って・支える」指導を基盤として、協働的な学びを推進する各教科での「プロジェクト型学習」及び個別最適な学びを推進する「単元内自由進度学習」に取り組んでいく。

研究推進の方向性は、次の通りである。

- ・令和6年度 単元内自由進度学習の単元開発
- ・令和7年度 単元内自由進度学習の単元開発・教科プロジェクト型学習の単元開発
- ・令和8年度 令和6年度と令和7年度を受けて「甲山学びメソッド」の完成

今年度は、広島県教育委員会の「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」の指定を受け、単元内自由進度学習に焦点を当て、実践を積み重ねていく。

3 研究仮説

- ・「単元内自由進度学習」を取り入れることで、学力差の大きい学級でも、どんどん学習を進めたい児童やこつこつとスモールステップで学習を進めたい児童が自分のペースで学ぶことができ、満足感や肯定感を感じることができるであろう。
- ・「プロジェクト型学習」を取り入れることで、学びの必然性が生まれ、児童が主体的に学ぶことにつながるであろう。また、探究のサイクルを教科の学習に取り入れているこれまでの実践を生かすことで、児童が教科の学習でも、自ら学習のサイクルを回し学び続ける学習者の育成につながるであろう。

※「単元内自由進度学習」…単元のゴールは同じだが、そこまでの過程を個に応じた学習していく個別最適な学び。

※「プロジェクト型学習」…各教科で単元のゴールを達成するためのプロジェクトを立ち上げ、教科の内容に必然性をもって学ぶ学習法。

4 具体的構想

(1) 安心して学習に取り組むための学習土台づくり

- ①学習規律の徹底
- ②ICT 機器の効果的な活用
- ③SSTによるお互いを信頼し、認め合える集団作り
- ④教師の教材研究力の向上

(2) 学びの基盤を作る一斉授業

- ① Google Classroom・学習アイコンの活用
 - ・本時のねらいを明確にし、児童と共有
 - ・1時間の学習活動を共有し、見通しをもたせる
 - ・児童がタイムマネジメントする授業
 - ・学び方の選択による一部自由進度学習
- ②「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を明確にした授業
 - ・「めあて」と「振り返り」、 「課題」と「めあて」を対応させ、意図的に学びを深める授業

(3) プロジェクト型学習の推進（協働的な学び）

- ①生活・総合的な学習の時間における経験単元の開発
 - ・児童の願いを大切に授業づくり
 - ・必然性のあるコミュニケーションの場の設定
- ②教科プロジェクト学習の推進
 - ・創立150周年や委員会活動など関連をもたせた授業づくり

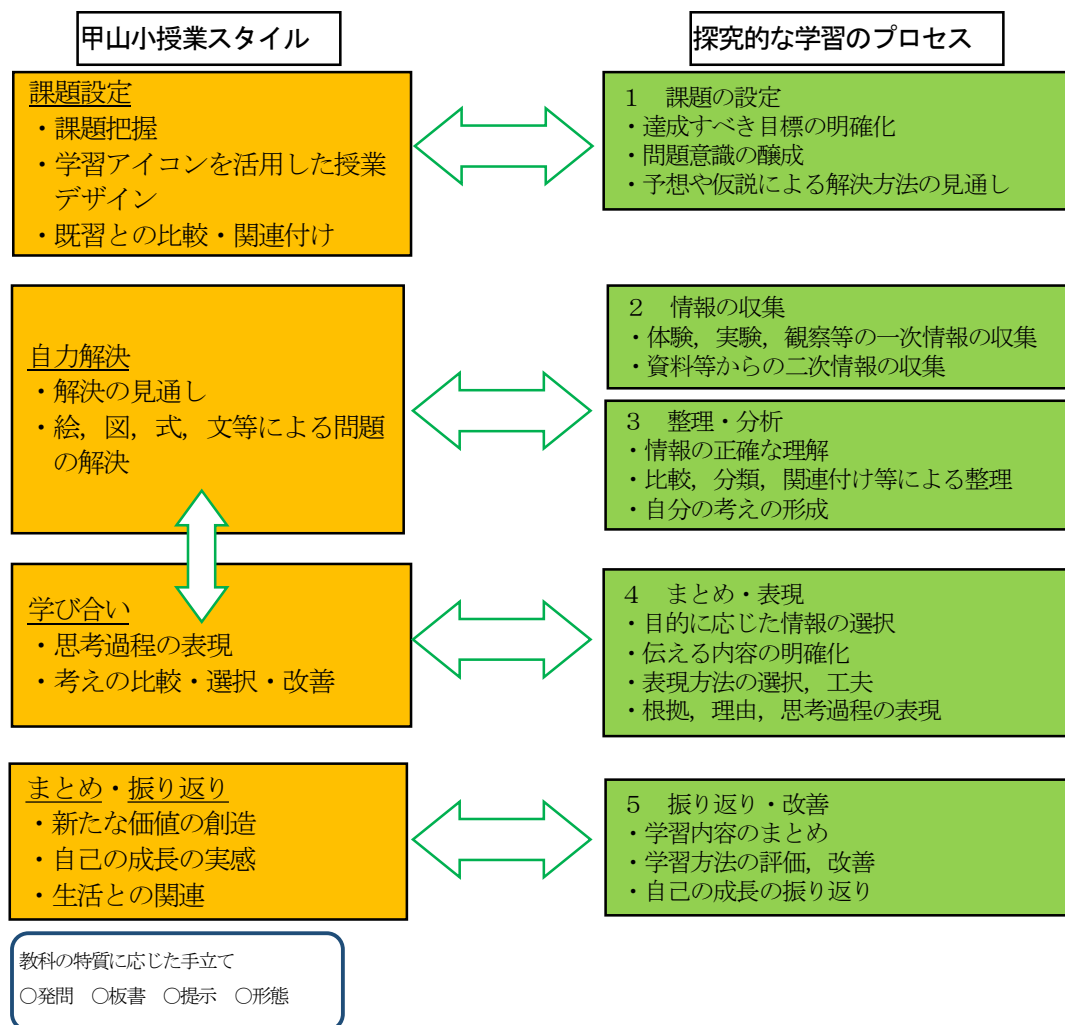
(4) 学びの調整力を育成する単元内自由進度学習（個別最適な学び）

学びの個性化

- ・学習の順序選択のできる授業
- ・学習形態の個性化（個人で、友達と、グループで）
- ・カリキュラムマネジメントの視点を生かした複数教科自由進度学習の単元開発

(5) 授業モデル

合言葉「こうきしんいっぱい ざんしんなアイデアでアピール！」



6 評価指標

	検証の視点	検証の時期	達成目標
①	全国学力学習状況調査、標準学力調査における学年平均が全国平均を上回る割合	8月(全国学力学習状況調査) 2月(標準学力調査)	全学年・教科 100%
②	資質・能力に関する児童実態調査の肯定的評価の割合	7月 12月 3月	90%以上
③	児童の姿についての教師の意識調査の肯定的評価の割合	7月 12月 3月	5段階評価における 平均4以上